

なんYA! かんYA!

夏だ！琵琶湖だ！
琵琶湖の魚、「湖魚（こぎょ）」を美味しく食べよう



琵琶湖の魚、と言えばビワコオオナマズにアユ、ビワマスなどの淡水魚。

豊かな琵琶湖の恵みをおいしくいただき、滋賀県の食文化に親しもう。

「発酵アイスクリーム」

鮎ずしの飯（いい）を使ったアイスクリーム。チーズケーキのようなコクと美味しさ。鮎ずしはパスタに使っても旨味と酸味が引き立つ。

「スジエビのかき揚げ」

琵琶湖の底に潜むスジエビ。郷土料理「エビ豆」だけでなくかき揚げも抜群。

野菜と一緒に煮てもエビの出汁が出ておいしく仕上がる。

「うなぎしゃぶ」

琵琶湖の天然鰻をしゃぶしゃぶに。ワサビをたっぷり添えて。



出典：『d design travel 17』 D&DEPARTMENT PROJECT

『つくってみよう滋賀の味 1・2』 滋賀の食事文化研究会 サンライズ出版

『湖魚と近江のくらし』 滋賀の食事文化研究会 サンライズ出版

『琵琶湖八珍』 大沼芳幸 海青社

トショブラ♥ ～エコ・プロジェクト～

図書館には本がいっぱい！古い本もあれば新しい本や雑誌の最新号もあります。どんどん増えていく本をどうするのかな～って考えたことはありますか？

図書館では不用になった本や保存期間を過ぎた雑誌、市民のみなさんから寄贈してもらった本などをリユース(再利用)する【エコ・プロジェクト】を開催しています。甲賀市内の5つの図書館で年1回、みなさんにお譲りしています。小説、雑誌、趣味の本、懐かしい児童書や絵本など気になる本や好きな本をもらえるチャンス！ぜひ利用してくださいね☆

発行：甲賀市図書館

水口図書館 : 63-7400 土山図書館 : 66-1056

甲賀図書情報館 : 88-7246 甲南図書交流館 : 86-1504

信楽図書館 : 82-0320

ホームページ : <https://lib.city.koka.lg.jp/>

Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信



vol.19

2024. Summer-Autumn

Koka City Library

ヤングアダルト (Young Adult) とは、中学生・高校生を中心とした大人と子どもの境目の世代「若い大人」「大人になりつつある人」という意味です。

甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ！』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

おすすめ この1冊



★ひとつの謎にふたつの真実。

驚愕のパラレルミステリー！

『ぎんなみ商店街の事件簿』

SISTER 編・BROTHER 編

井上真偽／著 小学館

ある日、ぎんなみ商店街の商店に車が突っ込む事故が発生。運転手は衝撃で焼鳥の串がのどに刺さり即死。しかし、この事件の目撃者の証言には違和感があり……

SISTER 編では、焼鳥店「串真佐」の三姉妹、佐々美・都久音・桃が、BROTHER 編では、近くに住む四兄弟、元太・福太・学太・良太が事件を解き明かしていきます。どちらの作品にも同じ三つの事件が起きます。事件と手掛かりは同じなのに、展開する推理やどりに着く真相がまるで違うという新感覚のミステリーです。どちらから読んでも、一冊だけでも楽しめるのですが、両編を読むことで全体像が明らかになっていきます。また、友達と交互に読みあったりと、新しい読書体験ができるハズです！

●この1冊で100回キュンしちゃいます。
『百恋語』

三川三／著 KADOKAWA

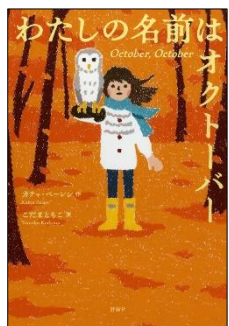


この本には幸せな恋のはじまりから、切ない恋のおわりまで、百のエピソードが詰まっています。となりのクラスの気になる子、毎朝の通学バスで見かける彼など、今あなたに恋しい人がいるのなら、もっと親しくするためのヒントが満載です。ちょっと気になる誰かの恋バナをあなたもこっそり聞かせてもらいませんか。

「百の恋の話をすると、恋はかなう」という噂があるとか……ぜひ、百の話を読んで、あなたの恋を成就させてください。

●わたしは自由だ。大空を飛ぶフクロウのように
『わたしの名前はオクトーバー』

カチャ・ペーレン／作 こだまともこ／訳 評論社



森の中で父と二人で暮らすオクトーバー。巣から落ちたメンフクロウの赤ちゃんを見つけて大切に育てていた。ところが、父親が大怪我で入院したため、フクロウを預けて、「母親とかいう女のひと」と一緒にロンドンの街で暮らすことになった。すべてが灰色の都会の暮らしに全力で反抗するオクトーバーだったが、たくさんの友達との出会いやテムズ川の自然活動を通して、自分だけの物語を見つけていく。オクトーバーからあふれ出す生き生きとした台詞が魅力的。リズムよく読める小説。

●絵をかくていく上で守っているもの、それは……
『神絵師の基本テクニック』

高山瑞穂／著 あかね書房



表紙のイラストが素敵だから、その本を読んでみたくなったということはない？ そんな人の心をつかむ絵を描く人ってどんな人だろう。この本では神絵師と呼ばれるイラストレーターさんにインタビューして、どうやって自分の「好き」を突き詰めたか、仕事をもらう転機になった絵は何だったかなどについて聞いています。プロの先生からイラストを描くための基本的なテクニックも教えてもらえるので、これを読んだらきみも絵を描きなくなるかも？

●強い信念とあきらめない心
『カタリン・カリコ』

増田ユリヤ／著 ポプラ社



新型コロナワクチン（mRNAワクチン）を開発したハンガリー出身の女性研究者カタリン・カリコさんは、2023年ノーベル生理学・医学賞を受賞され、一躍時の人となりました。彼女の研究人生は困難の連続でしたが決してあきらめず、その原動力は「人々を助けたい」「研究が好き」という熱い思いだけでした。彼女の開発したこのワクチンは、今後様々な病気のワクチンにも応用でき、多くの人々の命を救うといわれています。いつまでも好奇心を持って好きな事をやり続ける、そんな彼女の生き方に学ぶべきところがあるかもしれませんよ。

●「無料」の裏には何がある！？
『スマホアプリはなぜ無料？』

松本健太郎／著 河出書房新社

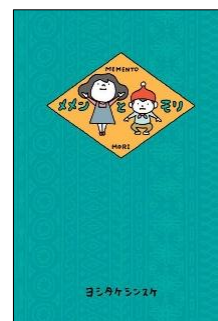


スマホアプリで無料のゲームをしたり、マンガや動画を見たりできるのはどうして？ そんな疑問を感じたことはありませんか？

誰もが知っている商品やサービスを例にして、無料の裏にあるお金の流れを分かりやすく解説しています。金融教育が高校から必修になった今、お金について10代から学んでおくことは、将来の自分や大事な人の身を守ることに繋がります。大切なお金と世の中のしくみについて知りたい人は、ぜひこの本を開いてみてください。

●いいこともわるいことも、重ねたすべてが私たちのいのち
『メメントモリ』

ヨシタケシンスケ／著 KADOKAWA



「なんのために生きてるのか」なんて、毎日違う答えでもいい。冷静な姉メメントと情熱家の弟モリが、三つの物語を通して「生きること」について考えていく……

タイトルのもとになっている「メメントモリ」とは「自分がいつか必ず死ぬことを忘れるな」という意味のラテン語で、著者はそれを「死はいつか来るから、生を輝かせましょう」と解釈して物語のテーマにされています。生きる意味や目的にモヤモヤを抱えている人に贈りたい1冊です。